

クリニカルラダー

	レベル I	レベル II	レベル III	レベル IV
到達レベル	<ul style="list-style-type: none"> 1-①日常生活のための基本的技術・態度を身につけ、ベッドサイドケアが安全・確実に実践できる ②受け持ち患者のケアをとおして看護の知識・技術を深めらる 2. チームメンバーの役割と責任を果たす 3. 院内研修に参加する 4. 看護研究に参加する 	<ul style="list-style-type: none"> 1. 看護過程を踏まえた個別的ケアが実践できる 理論的知識と臨床情報の関係づけを始める 2. 状況に応じたリーダーシップが発揮できる 3. 院内研修を看護実践に生かせる 4. 課題を研究に生かすことができる 	<ul style="list-style-type: none"> 1-①プライマリナースとしての役割が実践できる(自律、権限、責任) ②専門領域における看護実践の役割モデルとなる 2. あらゆる場面でのリーダーシップが発揮できる 3. 後輩に対し指導的にかかわれる 4. 看護研究をとおして専門看護を深めることができる 	<ul style="list-style-type: none"> 1. 創造的な看護実践を展開できる 2. 単位における課題を明確にし、目標を示しながら管理行動がとれる 3. 単位における教育的役割がとれる 4. 管理および専門看護分野における研究開発を行い、変革の推進者となる
情報収集	<ul style="list-style-type: none"> ・割り当てられた患者について、看護記録・患者の全体像がとらえられるような、ワークシートなど定められたフォームを活用し情報収集出来る ・割り当てられた患者について意図的に情報収集ができる 	<ul style="list-style-type: none"> ・患者の全体像がとらえられるような情報収集が出来る ・日常業務の中で患者・家族から意図的に情報収集ができる ・収集した情報から必要なものをチーム内に伝達できる 	<ul style="list-style-type: none"> ・患者が不安、心配な表情を出せるようコミュニケーション技法を用いて情報収集できる ・家族や社会問題について意図的に情報収集できる ・他の医療チームメンバーからも意図的に情報収集できる ・他の医療メンバーからも意図的に情報を得ることができる 	<ul style="list-style-type: none"> ・問題の領域に的をしぼり、選択的に情報収集ができる
問題の明確化	<ul style="list-style-type: none"> ・指導を受けながら問題点をあげることができる ・割り当てられた患者の情報を基に、看護領域の問題点を上げることができる 	<ul style="list-style-type: none"> ・患者のニーズを踏まえた計画が立案できる ・解決可能な計画が立案できる 	<ul style="list-style-type: none"> ・優先度を考え、看護問題に即した計画が立案できる ・潜在している問題や予測できる問題について対策を立てることができる 	<ul style="list-style-type: none"> ・計画を立案する時に病棟スタッフや他の医療チームメンバーから相談を求められる
計画立案	<ul style="list-style-type: none"> ・指導者の意見を聞いて計画を立てることができる 	<ul style="list-style-type: none"> ・患者のニーズを踏まえた計画が立案できる ・解決可能な計画が立案できる 	<ul style="list-style-type: none"> ・優先度を考え、看護問題に即した計画が立案できる ・潜在している問題や予測できる問題について対策を立てることができる 	<ul style="list-style-type: none"> ・計画を立案する時に病棟スタッフや他の医療チームメンバーから相談を求められる
実践	<ul style="list-style-type: none"> ・割り当てられた患者について、看護計画に基づきケアが実践できる ・患者・家族の言動や表情から反応を観察し報告できる ・指導を受けながら看護実践が記録できる ・緊急時指示を受け行動できる 	<ul style="list-style-type: none"> ・計画に基づき正確に素早く時間内にケアができる ・患者・家族の言動や表情から反応を観察し判断できる ・客観的データや身体上的の変化を観察し判断できる ・未経験の看護技術を実施するとき、資料や人的資源を活用できる ・看護実践を正確に記録できる ・支援を受けながら緊急事態に対応できる 	<ul style="list-style-type: none"> ・熟練した看護技術を用いてケアが出来、他のメンバーに指導できる ・自分の限界を認識し、資源を活用してケアに生かすことができる ・個別的な看護ケアが実践できる ・緊急事態に対応することが出来る 	<ul style="list-style-type: none"> ・看護実践において他のスタッフの人的資源になれる ・看護実践において創造性と刷新性を発揮できる ・多様性を組み入れて看護ケアが実践できる ・緊急事態にリーダーシップを発揮し、対応できる
評価	<ul style="list-style-type: none"> ・実践したケアについて正確に報告することができる ・ケアの結果についての疑問や曖昧な点を質問し整理することができる 	<ul style="list-style-type: none"> ・実践したケアについて妥当性を評価できる ・患者のケアに対する反応を評価し記録できる 	<ul style="list-style-type: none"> ・提供した看護ケアが患者のニーズを満たしていたか、同僚と評価できる 	<ul style="list-style-type: none"> ・提供した看護ケアについて質的、量的に評価し自他ともにフィードバックできる
管理	<ul style="list-style-type: none"> ・病棟の特殊性と業務内容について説明できる ・病棟の目的・目標を知り、その達成の活動に参加する ・チームメンバーの役割・機能を発揮する 	<ul style="list-style-type: none"> ・病棟の環境、物品に気を配り看護管理上の問題について考える事ができる ・チームメンバーとともに病棟の問題について情報交換、意見交換できる ・病棟の委員会活動に参加し、活動する ・勤務中に生じた緊急・災害時に適切に対処できる 	<ul style="list-style-type: none"> ・病棟の目標達成のための活動を推進し、その達成度の評価に参加する ・病棟の患者、看護スタッフに注意をはらす事ができる ・病棟の看護ケアの質の評価に参加する ・病棟の業務改善に創造的な意見を述べることができる 	<ul style="list-style-type: none"> ・患者ニーズとスタッフの能力を考慮して病棟管理が出来る ・看護管理上の問題の発見やその解決のための方策を師長とともに考える事ができる ・病棟の方針に基づいた活動を推進する ・病棟の委員会・会議の推進役となる ・スタッフのパイプ役として機能する
教育	<ul style="list-style-type: none"> ・院内教育プログラムへ参加する ・病棟の勉強会に参加する ・看護にかかわる法律を知っている ・社会人、職業人としての常識的な行動がとれる ・一事例をまとめ報告できる 	<ul style="list-style-type: none"> ・参加したプログラムの内容をチームに伝達することができる ・院内教育プログラムにたいし、人的資源として機能する ・専門的知識・技術を同僚と共有し活用する ・プライマリナースの体験を通して自主性が身につく 	<ul style="list-style-type: none"> ・専門知識を活用し、病棟スタッフの教育指導ができる ・病棟の教育プログラムに積極的に参加し指導者としての役割がとれる ・プリセプターとしての役割がとれる ・医療チームにおけるさまざまな関わりの中で倫理的・道徳的なジレンマに対処できる 	<ul style="list-style-type: none"> ・スタッフの能力開発、人間性の成長を支援する事ができる ・看護教育プログラム作成に参加する ・患者ケア、看護スタッフの育成、病棟の運営に関して推進者となる
研究	<ul style="list-style-type: none"> ・研究に関心をもち参加していこうとする意欲がある ・院内看護研究発表会へ積極的に参加する 	<ul style="list-style-type: none"> ・看護研究チームの一員として、割り当てられた研究の一部を担う 	<ul style="list-style-type: none"> ・看護研究を計画し、スタッフと共に取り組むことができる 	<ul style="list-style-type: none"> ・看護研究を進め、院内外に広めることができる ・看護研究を臨床で応用できる